

浜松医科大学 財務レポート

第12期事業年度(平成27年度) 2015年4月1日~2016年3月31日

2016



浜松医科大学は、

- 1) 優れた医療人を養成すること(教育)
 - 2) 独創的で世界の最先端研究の拠点になること(研究)
 - 3) 最善・最高の医療を提供し地域医療の中核的役割を果たすこと(診療)
 - 4) 産学官連携など、大学が持つ「知」を社会へ提供、還元すること(社会貢献)
- を使命とし、「経営」、「研究推進」、「教育」、「調査・労務」、「情報・広報」、「病院運営」及び「総務」の7つの企画室を設置し、4名の理事及び3名の副学長を中心に中期目標・中期計画に沿って事業の企画立案を行っています。

今後についても「多様な資金の確保」、「経費の効率的な使用・管理経費の抑制」、「有効な資源の配分」を推進し、教育、研究、診療及び社会貢献等の質の向上に取り組み、社会に期待される大学を目指していきます。

ごあいさつ

浜松医科大学長 今野 弘之



法人化後12年が経過し、第2期中期目標期間が終了しました。この財務レポートはその最終年度である平成27年度の本学の活動状況を主に財務面を通して広くお知らせし、ご理解いただくことを目的としております。

教育に関する事業では、学習環境・課外活動の充実のために病理実習室映像設備の整備、テニスコート改修等を実施するとともに学生サービスの向上を目的とした学務課事務室及び学生ラウンジの機能改修を行いました。

研究に関する事業では、機能強化事業として基礎臨床研究棟7・9階低温実験室等の集約改修を行った他、高速多光子レーザー顕微鏡システム、次世代シーケンサシステム、高精度自動細胞解析分離システム等の大型研究機器を導入しました。

診療に関する事業では、最新型の手術支援ロボット「Da Vinci Xi」の導入やハイブリッド手術室の新設等により、安全かつ高度な医療を行える体制を整備しました。

平成28年度から始まる第3期では建学の理念を堅持しつつ、時代の変化に対応した改革を行う必要があります。グローバル化を見据えた教育研究の質の向上、優秀な人材の確保と研究・診療の活性化及びガバナンス機能の強化などに取り組むこととしています。また、運営費交付金は重点支援の取組構想が評価されて再配分を受けましたが、全体で見ると大学予算は年々厳しくなっているため、財務基盤を強化する必要があります。そのため附属病院収入の増収、競争的資金等の外部資金獲得の拡大とともに寄附金による基金の充実が喫緊の課題です。皆様のご理解とご支援の程よろしくお願い申し上げます。

浜松医科大学理事(財務担当) 前田 広

日頃より浜松医科大学の教育、研究、診療等の活動にご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

この財務レポートは、第12期事業年度(平成27年度)の財務諸表等を基に、本学の活動状況をより分かりやすくご理解いただくことを目的に作成しています。

国の財政は依然として厳しい状況が続いており、国立大学に対しても財務基盤の強化が求められています。本学においても外部資金等の多様な財源の獲得に向けた取り組みを実施しており、その1つとして学生の奨学金や教育・研究設備等の充実を図るため基金の創設準備を現在進めております。

また、本学では「国立大学改革プラン」の機能強化の取り組みとして光医学教育研究拠点形成事業を推進し、光先端医学教育研究センターを設置する等様々な取り組みをしております。第3期においてはさらに大学の強み・特色を伸ばし、社会からの期待に応えられるよう積極的に機能強化に取り組んでまいります。

引き続き皆様方のご指導・ご支援を賜りますようお願いいたします。

貸借対照表

要約

決算日における資産、負債、純資産を表し、財政状態を明らかにしています。
借入金等の負債と国からの出資等の純資産による土地、建物等の資産をもとに
教育、研究、診療の業務活動を行っています。

(単位：百万円)

資産の部	27年度	26年度	増減(27-26)
土地	6,493	6,493	—
建物	21,199	21,770	▲ 571
構築物	265	274	▲ 9
工具器具備品	4,035	3,906	129
図書	615	613	2
その他有形固定資産	15	9	6
無形固定資産等	105	107	▲ 2
固定資産 計	32,731	33,176	▲ 445

現金及び預金	7,463	7,325	138
未収附属病院収入	3,402	3,280	122
たな卸資産	218	273	▲ 55
未収入金等	305	175	130
流動資産 計	11,390	11,054	336

資産合計	44,121	44,230	▲ 109
-------------	---------------	---------------	--------------

負債の部	27年度	26年度	増減(27-26)
資産見返負債 ^{※1}	3,058	2,827	231
借入金	17,856	18,849	▲ 993
リース債務	809	1,288	▲ 479
運営費交付金債務	—	454	▲ 454
寄附金債務	2,056	2,122	▲ 66
前受受託研究費等	283	316	▲ 33
未払金 ^{※2}	4,064	3,267	797
預り金・その他	715	653	62
負債合計	28,843	29,778	▲ 935

純資産の部	27年度	26年度	増減(27-26)
資本金	5,317	5,317	—
資本剰余金	4,631	4,470	161
利益剰余金	5,328	4,663	665
(うち当期未処分利益)	768	449	319
純資産合計	15,277	14,451	826

負債・純資産合計	44,121	44,230	▲ 109
-----------------	---------------	---------------	--------------

☆貸借対照表、損益計算書の端数処理については、百万円未満を切捨てています。合計についても円単位で計算したものを端数処理して、百万円未満を切捨てています。

【資産】

平成27年度末現在の資産合計は前年度比109百万円(0.3%)減の44,121百万円となっています。

主な要因としては、

建物が病院再整備事業の改修等により取得した資産の減価償却に伴い571百万円(2.6%)減の21,199百万円となったこと、工具器具備品が教育研究用機器や医療機器の更新、整備に伴い129百万円(3.3%)増の4,035百万円となったこと、未収附属病院収入が2、3月の稼働額の増に伴い122百万円(3.7%)増の3,402百万円となったことが挙げられます。

【負債】

平成27年度末現在の負債合計は前年度比935百万円(3.1%)減の28,843百万円となっています。

主な要因としては、

未払金が施設整備費補助金事業の完成払分の増加等に伴い797百万円(24.4%)増の4,064百万円となったこと、借入金が国立大学財務・経営センターへの返済等により993百万円(5.3%)減の17,856百万円となったこと、リース債務が返済等により479百万円(37.2%)減の809百万円となったことが挙げられます。

【純資産】

平成27年度末現在の純資産合計は前年度比826百万円(5.7%)増の15,277百万円となっています。

主な要因としては、

資本剰余金が施設費及び目的積立金による建物・設備等の取得等により161百万円(3.6%)増の4,631百万円となったこと、利益剰余金が当期未処分利益768百万円を計上したこと等により665百万円(14.3%)増の5,328百万円となったことが挙げられます。

(注) ※1 資産見返負債 資産見返負債とは、運営費交付金、寄附金、補助金等を財源として取得した資産について、取得時に資産と同額の「資産見返負債(各々の財源の名称)」を負債に計上し、その資産の減価償却相当額と同額を取り崩し収益計上することで、収支均衡に作用する国立大学法人等の特有の勘定科目です。

※2 未払金 業者等への3月末時点での支払未完了の金額で5月末までには全額支払われるものです。

損益計算書

要約

年度内に実施した事業により発生した費用、収益を表し、一年間の運営状況を明らかにしています。
教育、研究、診療の業務・目的別に費用を示し、運営費交付金や附属病院等の財源別に収益を示しています。

(単位：百万円)

費用の部	27年度	26年度	増減(27-26)
教育経費	312	262	50
研究経費	1,239	1,275	▲ 36
診療経費	12,585	12,290	295
教育研究支援経費	113	90	23
受託研究費	750	615	135
受託事業費	219	200	19
人件費	11,334	10,675	659
一般管理費	468	587	▲ 119
財務費用	275	306	▲ 31
経常費用合計	27,299	26,304	995
臨時損失			
固定資産除却損	35	50	▲ 15
その他	17	48	▲ 31
費用合計	27,353	26,403	950
当期総利益	768	449	319

収益の部	27年度	26年度	増減(27-26)
運営費交付金収益	5,539	5,281	258
授業料等収益	722	713	9
附属病院収益	19,412	18,394	1,018
受託研究収益	746	627	119
受託事業収益	218	198	20
寄附金収益	484	484	0
間接経費収入	113	132	▲ 19
施設費収益	55	—	55
補助金収益	112	99	13
資産見返負債戻入	424	626	▲ 202
財務収益	3	3	0
その他の収入	203	178	25
経常収益合計	28,037	26,738	1,299
臨時利益	31	46	▲ 15
収益合計	28,069	26,785	1,284
目的積立金等取崩額	52	67	▲ 15

【経常費用】

平成27年度の経常費用は前年度比995百万円(3.8%)増の27,299百万円となっています。

主な要因としては、

診療経費が医療機器の老朽化に伴う維持修繕費の増や患者数等の増加に伴う医薬品費及び診療材料の調達増により295百万円(2.4%)増の12,585百万円となったこと、

人件費が看護師及びコメディカル等の増、退職者の増等により659百万円(6.2%)増の11,334百万円となったことが挙げられます。

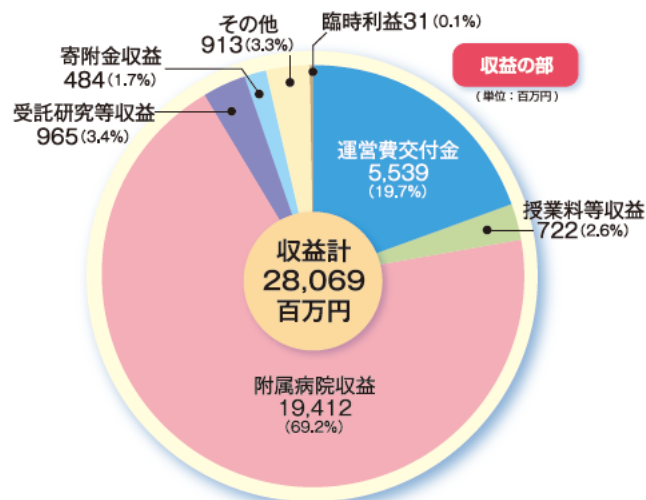
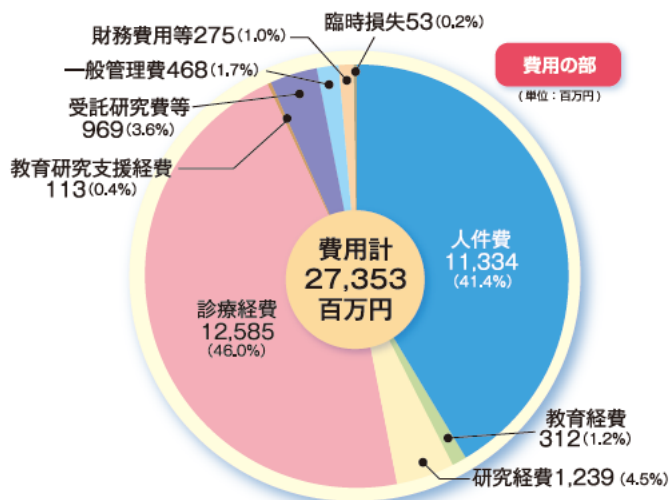
【経常収益】

平成27年度の経常収益は前年度比1,299百万円(4.9%)増の28,037百万円となっています。

主な要因としては、

運営費交付金収益が退職者の増等により258百万円(4.9%)増の5,539百万円となったこと、

附属病院収益が患者数の増、手術件数の増及び新規加算取得等による診療単価の向上等により1,018百万円(5.5%)増19,412百万円となったことが挙げられます。



平成27年度 主な事業

運営費交付金等による国の支援のほか、教職員の努力により外部資金及び病院収入等が増加した中で、効率的な運用を図ることにより下記のような事業を実施することができました。

教育 に関する事業

- 1 学生の自学自習の機会を広げるため、学生向けの電子書籍83点を追加導入しました。図書館外の学内や自宅等でも利用可能なため学生の自学自習を一層推進できました。
- 2 教育用設備の充実を図るため看護学実習用電動ベッドを36台整備しました。
- 3 学生窓口及び学生ラウンジの改善を目的とした講義実習棟学務課事務室等改修工事を実施し、学生サービスの向上を図りました。



3 学生ラウンジ

研究 に関する事業

- 1 基礎臨床研究棟に2か所あった低温実験室を7階に集約化し、9階に組換えDNA実験室を設置しました。
- 2 基礎臨床研究棟内の研究用サーバを集約し、5階旧機械室をサーバ室へ改修して有効活用しました。
- 3 先端的研究を高効率に進め、研究機能を強化するために細胞機能・形態の網羅的イメージング解析が行える自動細胞画像解析システム、細胞の高解像度3次元解析・機能変化の高度検出が行える共焦点レーザー顕微鏡システム、大規模DNA/RNA解読・定量が可能となる次世代シーケンサシステム等を導入しました。



3 共焦点レーザー顕微鏡システム

診療 に関する事業

- 1 最新型の手術支援ロボット「Da Vinci Xi」を導入しました。また、ロボット支援手術運営委員会を設置し、低侵襲手技に関する先進医療受け入れについて推進しました。
- 2 手術台と血管撮影装置を組み合わせたハイブリッド手術室を新設しました。これにより低侵襲・高精度の手術を行うことができるようになりました。
- 3 救急患者の積極的な受け入れ、手術件数の増による入院患者数の増等により増収を図ることができました。
- 4 ICUの改修及び管理体制を整備したことで「特定集中治療室管理料」の上位加算の取得に繋がり増収を図ることができました。
- 5 全診療科の患者について作成される退院時要約の2週間以内作成率が9割以上を達成したことで「診療録管理体制加算1」の取得に繋がり増収を図ることができました。



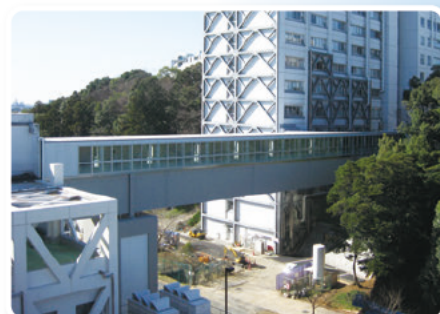
1 手術支援ロボット「Da Vinci Xi」



2 ハイブリッド手術室

その他 の事業

- 1 インフラ機能の安全性・耐久性を高めるため、基礎臨床研究棟渡り廊下の耐震補強と機能改修を実施し、大学施設(宿舍を除く。)の耐震化率100%を達成しました。



1 基礎臨床研究棟渡り廊下改修

【第2期中期目標期間終了時における積立金の処分】

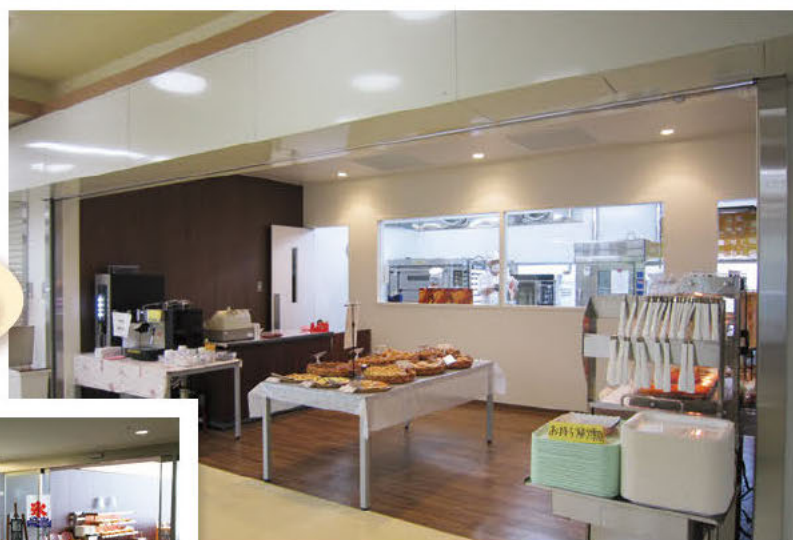
次期中期目標期間への繰越については、
「用途が特定されている額」と「会計処理上の観念的な利益額」
の合計5,328,805千円が承認されました。

【用途が特定されている額】

- ①大型医療機器整備 5,190千円(最先端医療設備等の整備に係る経費)
- ②年俸制導入促進費 17,632千円(教員への年俸制の導入促進に係る経費)

【会計処理上の観念的な利益額】

- ①積立金 5,305,983千円
(損益計算上の損失補填に充てることは可能ですが、現金支出を伴う業務には使用できません)



学生ベーカリー

平成28年4月、教職員・学生への福利厚生や患者サービス向上等の一環として、学生食堂の一部をリニューアルし、焼き立てパンやコーヒー等を提供する学生ベーカリーが開店しました。

学生ベーカリーで焼き上げたパンは病棟8階のベーカリーカフェ等でも提供されており、学生だけでなく多忙な教職員も学内で気軽に焼き立てパンが楽しめるようになりました。

※本レポートに関連する資料は、浜松医科大学ホームページにて開示しています。

■中期目標・中期計画、年度計画 http://www.hama-med.ac.jp/uni_introduction_chukimokuhyo.html

■財務諸表、事業報告書等 http://www.hama-med.ac.jp/uni_introduction_report_hjyouhou.html



国立大学法人浜松医科大学
財務レポート2016(平成27年度)

発行:国立大学法人浜松医科大学会計課

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号

TEL.053-435-2111(代)

<http://www.hama-med.ac.jp>